

小平市議会定例会一般質問通告書

再質問の方式

- 1 一括質問一括答弁方式
- ② 一問一答方式

質問件名 認知症になっても安心して暮らせる小平市をつくろう

質問要旨 (初めに質問全体の趣旨、次に具体的な質問内容を項目別に記入してください)

コロナ禍で日常の生活様式をかえなくてはならない中、高齢者も外出の自粛をしなければならない生活が長引くことなどから体の機能が衰えてきた、認知症が進んだようだと声をよく耳にします。このことは外出することや他人と関わること、楽しむことが健康を保つのにとても重要だと言うことを示しています。認知症は誰もがかかる可能性があり、高齢化とともに増えていくことを想定した上での対応策を考えていくことが必要です。

認知症になっても安心して暮らせるまち小平を市民といっしょにつくるために以下質問します。

1, コロナ禍で外出の自粛などにより、体の機能が衰えてきたことや認知症が進んだなどの声を聴いています。相談件数や内容について把握していますか。

2, 認知症の方や介護する人が安心して暮らすために

(1) 認知症の場合、手厚い介護が必要です。現在の要介護認定は身体介護に重点を置かれているように感じます。見直す必要があると考えますが、ご見解は。

(2) 2月20日開催の市民公開講座、生きいき長生き認知症予防を開催するに至った背景についてお示ください。

(3) 認知症サポーターについて、小平市地域包括ケア推進計画では2023年度末の目標が10000人となっています。さらに増やす必要があると考えます。また、フォローアップも必要と考えますがご見解は。

(4) 認知症支援リーダーについて、小平市地域包括ケア推進計画では2023年度末の目標は220人となっています。認知症支援リーダーはどこでどのような活動をしていますか。また今後どのような活躍を期待しているかお示ください。

(5) 認知症の方の社会参加について、楽しめるボランティア活動や負担にならない程度の労働などの可能性を考えていくことについてご見解をお示ください。

(6) これまでの認知症本人交流会、認知症介護者交流会の開催の状況、参加者の反応についてお示ください。

(7) 認知症の方や家族が行きたいときに行くことができる居場所が必要だと思います。常設の居場所の設置について見解を伺います。

上記のとおり、小平市議会会議規則第57条第2項により通告します。

令和4年2月17日 小平市議会議長 殿 小平市議会議員 氏名 さとう悦子

受付番号【 】

26	25	24	23

-(/)